

- 開催日時 平成30年1月26日(土) 13時～16時30分
- 会場 奈良教育大学教員養成センター1号館
- 参加者 23名

報告内容

① 一 常膳寺仏像群の作者系統に関する推論 一

奈良教育大学教授 山岸 公基

○仏像は礼拝の対象である。また、作者(仏師)が誰であるのか、仏像彫刻を考えるうえで基本であるが、なかなかわからない。書付があると分かるが、書付も時々信用しにくいこともある

○気仙三観音(常膳寺・長谷寺・観音寺)の十一面観音様は2mを超える大きさがある。これだけの大きな仏像を作るには、多くの人が力を結集して作ったのに違いない。

○常膳寺の同一作者もしくは同一工房の作と考えられる仏像群は、
十一面観音菩薩立像、千手観音菩薩立像、不動明王像、毘沙門天立像
1500年前後に相次いで作られたと考えられる。

○陸前高田市及び住田町に遺る、常膳寺仏像群と同一作者もしくは同一工房の作と考えられる仏像と参考にされた可能性のある仏像◎

- 十一面観音菩薩坐像 住田町・向堂観音堂
- 十一面観音菩薩坐像懸仏 陸前高田市・沙田家(廃東岸寺)
裏に明應5年(1496年)の銘文

◎観音菩薩坐像 陸前高田市・福寿庵 応仁3年(1469年)の銘文

○デザインが同一である。

- 沙田家の懸仏の周囲のデザイン
- 常膳寺の十一面観音菩薩像のネックレスの意匠
全体を比べていると類似に気付けない。

○デザインの共通(輪郭が波形を呈して三蓮子の形、中央に花飾り)

- 向堂観音堂の十一面観音菩薩坐像のネックレスの意匠
- 常膳寺の不動明王のネックレスの意匠

こうした胸飾りをつけている仏像は希である。旧陸奥国気仙郡に様式的にも類似する時期に集中して現れるのは、同一作者、あるいは一人の作者の指導で工房がこれらの仏像を作っていたと考えられるのが自然だろう。

○首の三つの筋は三道と言って仏像の首の部分の特徴的なものである。常膳寺の十一面観音菩薩像では、下から見ているとわからないが、三道の一番下で別の首の材を差し込んでいる(さし首)、という大きな特徴がある。通常はもっと下でさし首にして、さしていることが分かるので、胸飾りで隠すというのが普通ですが、常膳寺を始めとする仏像は、三道の一番下でさし首にしているのが特



徴です。

○常膳寺の十一面観音菩薩像の頭の上には頭上仏面という仏の顔がつくのが一般的だが、懸仏の地髪部(髪の毛の生え際)や目尻の2本の皺も共通していて同じ作者の傾向を感じる。向堂十一面観音像には頭上仏に体がついている。常膳寺の十一面観音菩薩像の頭の上の仏の前に山のようなものも、上半身だということが分かる。また、黒崎神社の十一面観音も今はそうじゃないが、もともと別の木が寄せ合わせてあったので、同じようにしていた可能性がある。頭上的な共通性にも注意される。

○常膳寺の観音像は条帛、大衣をつけた姿であるが、沙田家の懸け仏(1496年)も同じ形であり、福寿庵の観音菩薩坐像(1469年)も同じ姿 ○常禅寺の千手観音菩薩と福寿庵の観音菩薩は、自髪部を持たない鬚の立ち上がりが類似している。



このようなことから、常膳寺の仏像群は 1469 年の後、1500 年前後につくられたと考えられる

○東寺大仏師の左京康秀の作といわれる仏像

達磨大師座像・大権修理菩薩奇像 岩手県 正法寺
四天王立像 愛知県 浄蓮寺 (島根県 岩屋寺旧蔵)

○宿院仏師源次工房作の仏像

十一面観音菩薩坐像 宮崎県 長久寺

このことから、大仏師であっても、地方での仕事を引き受けなければならないという 1500 年前後の社会の様相が分かる、

宿院仏師源次工房作の宮崎長久寺の十一面観音菩薩は、三道の下で首をさす形であり、常膳寺と共通するところである。また、常膳寺の仏像群を作った人は、陸奥の国の造仏の流れを汲み、奈良の造仏の流れを吸収していたと考えられる。

②子ども用教材の発表 「常膳寺について」

奈良教育大学大学院修士課程 近藤花梨、 学部生 西村 奏、辰上亜弥子

子ども用教材「常膳寺―気仙の観音―」から

- ・常膳寺の説明
- ・常膳寺の十一面観音菩薩立像、千手観音菩薩立像の手、頭、服の特徴
- ・千手観音像から干割れについて
- ・寄木造の説明

良い点 無駄がない、分担作業ができる、元の木よりも大きな像が作れる

- ・さし首の部分の説明

- 失敗しても作り直せる
- 干割れを防ぐ手立ても考えている
- 十一面観音像一人で作ると何日ぐらいかかる
東大寺南大門の仁王像は 69 日で作っているが、難しい。たやすくはできない。
- 頭上の仏さまはどのような表情をしている。 喜怒哀楽



◦なぜ十一面なのか 仏教にとって大切な数



子ども用教材「常膳寺 一気仙の観音」

③陸前高田市調査に基づく防災教育模擬授業

奈良教育大学 学部生 仲村幸奈、櫛乃里花、上田薫

地震直後 君ならどうする (VTR 視聴後)

発生 身を守る行動

収まる 状況の確認 ⇒テレビ、周囲の状況を確認、電話、インターネット

停電 ⇒ 周囲の状況を確認

グループの意見(1グループ)

- ・外の様子を見る、何も無いところへ逃げる、ガスを止める、大声で助けを求める
- ・何が起きているのか、周囲の状況の確認や使える機器から情報を集める。
↳次の行動を考える。
- ・ESD とのつながり 今の状況を、使えるものを駆使して情報を集め、自分の力で考え、正確な判断に基づいて行動することが大切である。ということから、批判的判断力の能力が防災教育につながる。



④陸前高田市の震災復興と文化遺産調査について

○陸前高田市防災調査家 及川征喜氏

- ・文化遺産調査に至る経緯と調査に対する感謝
- ・大変な状況は今も続いている。

○陸前高田市古文書研究会 松阪泰盛氏

・引っ越し7回 昨年にとやっと家を建てることのできた。仮設住宅に6年居住する。

- ・被災地での学生の姿は素晴らしい。
- ・『未来を担う「人づくり」 陸前高田市教育研究所 防災教育実践発表』の資料を基に気仙小学校の防災教育を説明。
- ・避難訓練は大事である。



○元小学校教員 及川江巳氏

- ・市のコーディネーターをしている。
- ・交流プラザにおり、震災復興住宅に住む高齢者や高齢夫婦の話し相手をしている。また、悩みの相談や、介護についても市と連携を取りながら、安心して暮らしてもらえるようにしていきたい。

